かゝる意圖の下につくられたる訓練所にも労農青年は積極的に入所し、所謂「内から」の攻撃を開始しなければならない。

即ち、青年訓練所青年の一切の不平不満要望を反軍国主義斗争に導くべく、不断の執拗果敢なる宣傳と煽動を組織的計画的に敢行しなければならない。又、

(一)農村青年の農繁期に於ける休所要求
(二)労働青年の残業手当支給要求
(三)晝間訓練反對、夜間訓練制実施の要求
(四)養蚕業の繁忙期に於ける休所要求
(五)生徒の公選による教官決定の要求
(六)訓練時間短縮の要求
(七)軍事教練反對の要求
(八)教科目の生徒による決定權獲得の要求

等々を支持し、極端なる反動的軍国主義支配と徹底的に抗争しつゝ、一路「青年訓練所の自主化」のために邁進しなければならない。

スローガンはかうだ「青年訓練所を青年の手に!」

かくすることによって帝国主義ブルヂョアジーの惨憺極る意圖を沫殺しなければならない。

B、對官製青年團斗争――

帝国主義戦争の危機の尖鋭化に正比例して、官製青年団の軍国主義支配の濃度は益々濃厚となりつゝある。

わが同盟員は青年訓練所に対すると同じく、積極的に入団し、その「自主化」のために斗争しなければならない。而してその自主化運動は

(イ)官僚的幹部に対する斗争
(ロ)反動的軍国主義的諸計画に対する斗争
(ハ)自主的事業の組織の開始のための斗争

等々の斗争を組織的に展開し、当局のこの運動に対する干渉弾圧偽瞞を徹底的に斗争しなければならない。

而して、これらの斗争の実践を通じて、支配階級の軍国主義政策を暴露し、官製青年団を帝国主義ブルヂョアジーの手より戦ひとり、進んで戦斗的青年を同盟の傘下に獲得しなければならない。

この斗争のスローガンはかうだ、「官製青年団を青年の手に!」

C、官製女子青年団、処女會に対する斗争

帝国主義ブルヂョアジーは官製女子青年団(或ひは処女會)を通じて、思ふ儘に反動的教育訓練を施し、永久に女性を彼等の忠実なる奴隷たらしめると共に、間接的に男子青年の階級的行動への進出を阻止せんとして居る。

かゝる支配階級の陰謀に対しては、官製青年団に対する斗争と同一の